

# 平成29年度 患者のための薬局ビジョン推進事業



大阪府 健康医療部 薬務課



一般社団法人 大阪府薬剤師会  
Osaka Pharmaceutical Association

## 事業の背景

平成27年10月23日、かかりつけ薬剤師・薬局に求められる機能を明確化し、将来に向けた薬局再編の姿を示す「患者のための薬局ビジョン」が策定された。

厚生労働省はこのビジョン実現に資する、かかりつけ薬剤師・薬局機能の強化のためのモデル事業を本府を含む都道府県への委託により実施した。

## 事業目的

地域包括ケアシステムの中で、かかりつけ薬剤師・薬局が服薬情報の一元的・継続的な把握の上、在宅での対応を含む薬学的管理・指導等の機能を果たすことが必要とされているが、例えば、退院時のカンファレンスについても、実施時間帯等がネックとなり参加へのハードルが高く<sup>注1)</sup>、また24時間対応を標榜していても、他の職種からの認知が低いために多職種連携に繋がっていない<sup>注2)</sup>という声もある。

こうした問題を解消し、在宅取組等を行う薬局の増加と定着に繋げるため、必要な事業を実施する。なお、本府内は小規模薬局(薬剤師が1～2人)が4割を占めるため、府全体の機能強化のためには、そうした規模の薬局でも取組むことができる内容を検討する。

## 事業実施期間

平成29年7月1日から平成30年3月30日まで

## 事業主体

大阪府(モデル事業実施の委託先 一般社団法人 大阪府薬剤師会)

## モデル事業実施地域

箕面市(退院時の服薬管理情報の共有検討) … P2～12  
熊取町(時間外を含めた他職種からの相談への対応) … P13～18

## 協力機関

一般社団法人箕面市薬剤師会、箕面市立病院、泉佐野薬剤師会

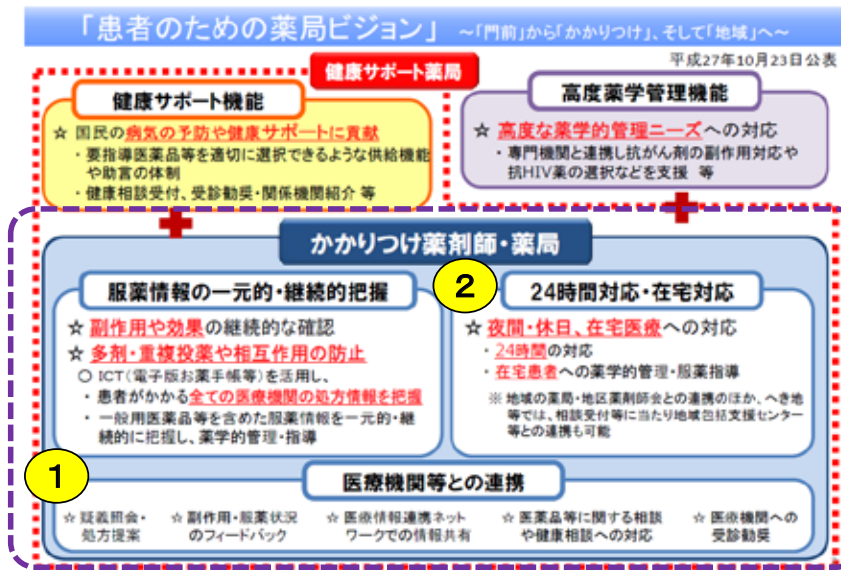
### 注1)

退院時共同カンファレンスについては、薬局薬剤師は1.8%程度しか参加できていないとされている(平成26年度 老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師による薬学的管理及び在宅服薬支援の向上及び効率化のための調査研究事業」報告書)。大阪府では約4割が薬剤師数2名以下の小規模な薬局(本府薬局機能情報による)がであり、午前中の開催も多いカンファレンスに必ず対応することが難しい薬局が多いと推察される。

### 注2)

平成28年度の本府事業で実施したアンケートにおいては、薬局薬剤師の業務内容(例:残薬管理)の認知が低かった一方、連携を期待し、「薬剤師と確実に相談できる連絡先と時間を知りたい」という意見も多かった。

# かかりつけ薬剤師・薬局機能の推進について



## 【大阪府の現状と課題】

- まずは「かかりつけ薬剤師・薬局」の土台から推進を図ること。
- 本府内には約4000件の薬局があるが、小規模薬局（薬剤師が1～2人）が4割を占めるため、府全体の機能強化のためには、こうした薬局でも対応できる内容を検討することが必要。

## 【昨年度の取組み（残薬管理の推進）】

- 薬剤師の残薬管理の積極的な実施が、残薬リスクの低減に加え、在宅医療の推進に向けて、多職種連携推進の切り口となることが確認できた。
- モデル地域での取り組みの継続と、府全域への展開を行っている。（今年度は保健所活動特別推進事業を実施）

## 【本年度の取組み内容】

- かかりつけ薬剤師・薬局の機能を発揮しやすくするため、次の2点を計画した。

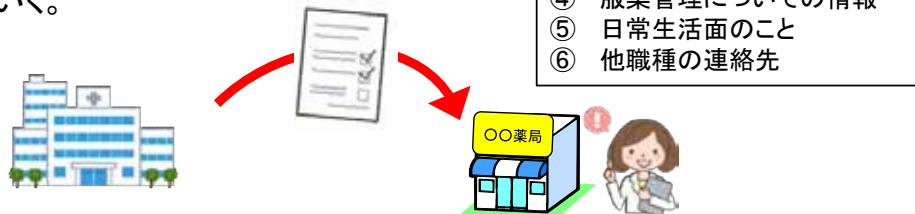
- 1 「医療機関との情報共有の強化」
- 2 「24時間の相談対応等、薬局薬剤師の役割について他職種からの理解促進」

### 1 医療機関との情報共有の強化

「医療機関等との連携」の機能に着目し、退院後も安心して調剤や訪問薬剤管理等を受けるため、医療機関から薬局に対する情報共有に使用する『薬剤管理情報提供書』の内容や提供方法の検討を図る。

（課題）

関係施設の意見を基に、情報提供項目や共有方法等の在り方について取りまとめ、継続的な取組みに繋げていく。



### 2 24時間の相談対応等、薬局薬剤師の役割について他職種からの理解促進

「24時間対応・在宅対応」の機能に着目し、他職種が薬のことで相談したいときに、薬局にいつでも相談連絡いただけるよう、地域のケア会議等において地域内の薬局の連絡先や応需できる業務内容について周知強化を図る。

（課題）

事業中に発生した相談事例について取りまとめ、未だ24時間対応に取り組んでいない薬局の後押しに活用していく。

1 医療機関との情報共有の強化

## 箕面市立病院との情報共有の取組について



滝ノ道ゆする

一般社団法人 **箕面市薬剤師会**  
✿✿✿✿✿✿✿✿

### 【参加機関・施設の概要】

一般社団法人 **箕面市薬剤師会**  
✿✿✿✿✿✿✿✿



会員数：A会員53名（薬局）、B会員29名

備蓄・調剤センター（箕面市薬剤師会薬局）

箕面市立病院前にあり、一部のジェネリックを含む約1500品目以上を備蓄  
TPN等無菌調製が可能なクリーンベンチを備えた無菌室を完備し、箕面市だけにとどまらず、近隣の支援センターとしての機能も果たしています



地域医療支援病院 がん診療拠点病院  
**箕面市立病院**  
Minoh City Hospital

診療科目 23診療科

内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、神経内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科

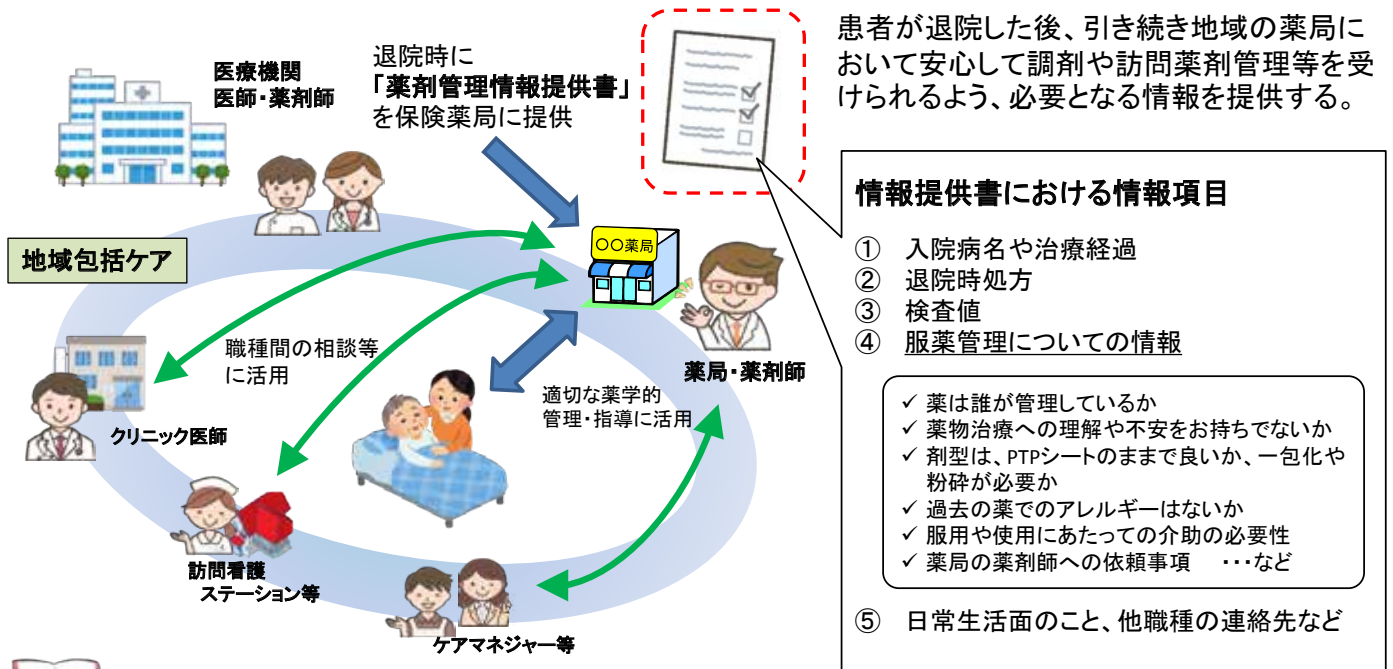
病床数 317床

薬剤部 薬剤師数 実働23名（8病棟で常駐体制）

院外処方率 約99%（外来患者の多くが市内薬局で薬剤交付を受けている）



# 服薬管理情報の共有検討の概要



1. 退院時に病院で作成した「薬剤管理情報提供書」を、患者が希望する地域の薬局に対して情報提供を行い、その後の調剤や訪問薬剤管理等へのメリットを確認する。
2. 病院と地域内の薬局がどのような内容で連携をおこなうべきかについて考察し、継続的に連携をおこなうにあたっての課題を検討する。

## 【参考】

### 薬局⇒病院への服薬情報等提供書



(別紙様式1)

### 服薬情報等提供料に係る情報提供書

情報提供先医療機関名  
担当医 科 期 平成 年 月 日

情報提供元保険薬局の所在地及び名称  
電 話 番 号 (FAX)  
保険薬剤師氏名 印

患者氏名  
性別(男・女) 生年月日 朝・夕・夜 年 月 日生(歳) 職業  
住所  
電話番号

処方せん発行日	平成 年 月 日	調剤日	平成 年 月 日
1	処方薬剤の服薬状況(コンプライアンス)及びそれに対する指導に関する情報		
2	併用薬剤等(一般用医薬品、医薬部外品、いわゆる健康食品を含む。)の有無(有・無)▼ 薬剤名等:		
3	患者の訴え(アレルギー、副作用と思われる症状等)に関する情報		
4	症状等に関する家族、介護者等からの情報		
5	薬剤師からみた本情報提供の必要性		
6	その他特記すべき事項(薬剤保管状況等)		

【記載上の注意】

- 1 必要がある場合には、続紙に記載して添付すること。
- 2 わかりやすく記入すること。
- 3 必要な場合には、処方せんの写しを添付すること。
- 4 「○」については、薬剤師が情報提供の必要性を認めた場合のみ、記載すること。

#### 情報提供の項目:

- 処方薬剤の服薬状況(コンプライアンス)及びそれに対する指導に関する情報
- 併用薬剤等(一般用医薬品、医薬部外品、いわゆる健康食品を含む。)の有無(有・無)
- 患者の訴え(アレルギー、副作用と思われる症状等)に関する情報
- 症状等に関する家族、介護者等からの情報
- 薬剤師からみた本情報提供の必要性
- その他特記すべき事項(薬剤保管状況等)

#### 服薬情報提供料(調剤(薬学管理料):20点)

患者、その家族等若しくは保険医療機関の求めがあった場合又は薬剤師がその必要性を認めた場合において、患者の同意を得た上で、薬剤の使用が適切に行われるよう、調剤後も患者の服用薬の情報等について把握し、患者、その家族等又は保険医療機関へ必要な情報提供、指導等を行った場合に、所定点数を算定する。

## 【参考】

### 日本病院薬剤師会(日本病院薬剤師会 療養病床委員会)作成のもの(平成20年)

薬剤管理 サマリー

御中

様の退院時処方・薬学的管理事項について連絡申し上げます。

退院年月日: 年 月 日 退院(初期M/F) 科 病室 担当医

入院管理:

薬歴

処方

特

記

本

備

※不明な点がございましたら、下記薬剤師までお問い合わせ下さい。

病院 薬剤師

TEL

薬剤師

#### 概要:

一般的な薬学的チェック項目と薬学的問題点と経過、今後の継続的に確認してほしい内容(検査値・TDMのデータ、抗けいれん剤やテオフィリンなどの発作の有無、服薬説明時の留意点としてプラセボ投与、適応外使用薬剤、視力・聴力・理解力、麻痺の有無、病名告知の有無などはProblem List欄に記載)の2群に分けている。(個々の病院施設に適應するように作り変えて有用に活用すること)

今の「退院時薬剤情報管理指導料」(医科:90点)は患者(家族)への情報提供が評価されるもの。

医師や看護師は退院時に紹介状やサマリーを書き、次の施設に伝達することが定着しているが、薬剤師にはそのような仕組みが確立していない。



かかりつけ薬剤師・薬局の機能推進の立場から、今一度こういったサマリー運用を再評価する意義があるのではないかと?

### 市立病院との連携(今回の事業以前から行っていること)

#### ● 年2回の薬薬連携の意見交換会を開催

##### 意見交換例

- ・処方せんに検査値を記載することについて
- ・糖尿病連携手帳について
- ・処方箋の記載(用法用量の記載方法等)について

#### ● 最近の具体的な連携運用:

##### 残薬調整業務の簡素化

(次のようなプロトコル(一部抜粋)の範囲内で薬局側で調整を実施)

- ・残薬調整する場合は患者に十分説明を行い合意のうえ行う。
- ・慢性疾患の常用薬を対象に、「減」のみ可能とすること。
- ・次回オーダー引用時の都合のため、ゼロとはしない。
- ・次回受診時までの日数+αの余裕を持った調整とすること。
- ・調整を実施した場合、指定の様式により市立病院に報告をすること。

他

#### ● その他

- ・定期的な病診連携懇話会へのオブザーバー参加  
(本事業(退院時の情報共有)のことも9月の懇話会で紹介を実施)

# 事業の進行概要

平成29年

6月 箕面市薬剤師会との調整、箕面市立病院への協力依頼

7月 情報提供書の内容や作業手順の検討

- ✓ 対象とする患者の範囲や内容をどうするか？
- ✓ どのような手段(タイミング)で情報提供するか？
- ✓ 患者からの同意をどのように担保するか？

8月 薬薬連携の意見交換会を開催し、薬剤師会関係者への説明

9～12月末 情報共有の実施

平成30年

1月 関係者へのアンケートの実施

2月 薬薬連携の意見交換会を開催し、アンケート結果等を踏まえて、今後の情報共有方法等の検討

## 事業で使用した薬剤管理情報提供書

箕面市立病院 薬剤管理情報提供書

〒562-0014 箕面市豊野町丁字番4番  
箕面市立病院薬剤部 薬師部

FAX: 06-6644-1111

氏名: \_\_\_\_\_ 種: \_\_\_\_\_ 当院のルネ番号: \_\_\_\_\_  
 生年月日: \_\_\_\_\_ ( 歳 ) 性別: \_\_\_\_\_ cm 体重: \_\_\_\_\_ kg  
 病状の状況: \_\_\_\_\_  
 入院中の治療経過: \_\_\_\_\_

特別な記載

薬剤についての情報  
 中心静脈栄養  点滴管理  人工肛門  酸素療法  気管挿管  
 麻酔管理  経管栄養  胃瘻  褥瘡の処置  尿道のケア  
 インスリン注射  自己血細胞増殖  吸引吸引  その他( )

薬剤師の処方管理  
 本人  家族( )  その他( )  
 処方管理の工夫  なし  お薬ケース  薬剤カレンダー  1日分ずつ準備する  
 薬付け  その他( )

付録(内服)  
 なし  薬剤師  薬剤師に入院者  薬剤師  
 付録(外用)  
 なし  貼付剤  塗り薬  点眼薬  吸入薬  
 注射薬  その他( )

処方アレルギ  
 なし

その他詳細の記載

検査結果

白血球	検査結果
Hb	検査結果
血小板	検査結果
AST	検査結果
ALT	検査結果

箕面市立病院

介護度	<input type="checkbox"/> 要1 <input type="checkbox"/> 要2 <input type="checkbox"/> 要1 <input type="checkbox"/> 要2 <input type="checkbox"/> 要3 <input type="checkbox"/> 要4 <input type="checkbox"/> 要5
食事	<input type="checkbox"/> 介助なし <input type="checkbox"/> 介助あり <input type="checkbox"/> 制限なし <input type="checkbox"/> 制限あり (水分 <input type="checkbox"/> 糖分 <input type="checkbox"/> その他 )
睡眠障害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (睡眠剤使用 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり)
排便	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 回数 1回/日 下剤使用 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
歩行	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> シルバーカー <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> その他
同居	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし
サービス利用	<input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> デイケア <input type="checkbox"/> デイサービス <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 訪問リハ <input type="checkbox"/> その他( )
認知度	<input type="checkbox"/> 日常生活自立度( ) <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり

退院時  
 退院予定

担当医師	施設名	担当薬剤師	連絡先(電話・FAX)
担当薬剤師			
ケアマネジャー			

箕面市立病院

# 「薬学管理情報提供書の項目検討」

## 入院病名や治療経過

Minoh City Hospital 薬剤管理情報提供書

〒562-0014  
箕面市萱野五丁目7番1号  
御中 箕面市立病院薬剤部  
担当薬剤師

FAX

記の患者さまについて情報提供いたしますので退院後の薬剤管理指導をよろしくお願い申し上げます

氏名 様 当院カルテ番号

生年月日 歳) 性別: )

退院日 身長: cm 体重: Kg

疾病の  
状態

主病名

既往歴

入院中  
の治療  
経過

特別な  
処置

中心静脈栄養  点滴管理  人工肛門  酸素療法  気管切開  
 麻薬管理  経管栄養  胃瘻  褥創の処置  尿道カテーテル  
 インスリン注射  自己血糖測定  喀痰吸引  その他( )

体表面積を換算する場合もあるため、年齢、体重だけではなく身長もあった方が良いのではないかと。

併用薬等の考察の観点から、主病名だけではなく、既往歴や入院経過の概要もあった方が良いのではないかと。

規格や剤型を考察する上で、処置状況を把握できた方がよいのではないかと。

## 服薬管理についての情報

薬剤についての理解度	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> やや困難 <input type="checkbox"/> 困難
服薬時の問題	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 服用拒否 <input type="checkbox"/> 嚥下困難 <input type="checkbox"/> 自己判断調整
投薬方法	<input type="checkbox"/> シート <input type="checkbox"/> 一包化 <input type="checkbox"/> 粉碎・脱カプセル <input type="checkbox"/> 簡易懸濁法
入院中の服薬管理	<input type="checkbox"/> 自己管理 <input type="checkbox"/> 病棟管理
退院後の服薬管理者	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族( ) <input type="checkbox"/> その他( )
服薬管理の工夫	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> お薬ケース <input type="checkbox"/> 服薬カレンダー <input type="checkbox"/> 1日分ずつ準備する <input type="checkbox"/> 声掛け <input type="checkbox"/> その他( )
介助(内服)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 毎回配薬 <input type="checkbox"/> 薬を口に入れる <input type="checkbox"/> 開封介助
介助(外用)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 貼付剤 <input type="checkbox"/> 塗り薬 <input type="checkbox"/> 点眼剤 <input type="checkbox"/> 吸入薬 <input type="checkbox"/> 坐薬 <input type="checkbox"/> その他( )
禁忌アレルギー	なし
その他服薬の問題点	

日本病院薬剤師会の「薬学管理サマリー」の項目も参考に、服薬カレンダーなどの選択肢を追加(作業量軽減のため、基本的にはチェックボックスによる項目を考察)



# 退院時処方

退院時処方	
特記事項	

投与量を確認する上で、特に重要な検査値(肝・腎機能)を選択。

# 検査値

確定保存 一時保存 保存+印刷 終了		検査結果取得	から 7 日間の検査結果を取得します。
検査値	白血球	尿蛋白	
	赤血球	クレアチン	
	ヘマトクリット	eGFR	
	血小板	AST	
	CRP	ALT	
介護度	<input type="checkbox"/> 支1 <input type="checkbox"/> 支2 <input type="checkbox"/> 要1 <input type="checkbox"/> 要2 <input type="checkbox"/> 要3 <input type="checkbox"/> 要4 <input type="checkbox"/> 要5		
食事	<input type="checkbox"/> 介助なし <input type="checkbox"/> 介助あり <input type="checkbox"/> 制限なし <input type="checkbox"/> 制限あり ( <input type="checkbox"/> 塩分 <input type="checkbox"/> 水分 <input type="checkbox"/> その他 )		

検査値については、電子カルテから直接落とし込むことが出来る工夫。

# 日常生活面のこと、他職種の連絡先など

介護度	<input type="checkbox"/> 支1 <input type="checkbox"/> 支2 <input type="checkbox"/> 要1 <input type="checkbox"/> 要2 <input type="checkbox"/> 要3 <input type="checkbox"/> 要4 <input type="checkbox"/> 要5			
食事	<input type="checkbox"/> 介助なし <input type="checkbox"/> 介助あり <input type="checkbox"/> 制限なし <input type="checkbox"/> 制限あり ( <input type="checkbox"/> 塩分 <input type="checkbox"/> 水分 <input type="checkbox"/> その他 )			
睡眠障害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 睡眠剤使用 ( <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり )			
排泄	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 排便 1回/ 日毎 下剤使用 ( <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり )			
歩行	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> シルバーカー <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> その他			
同居	<input type="checkbox"/> あり ( ) <input type="checkbox"/> 独居			
サービス利用	<input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> デイケア <input type="checkbox"/> デイサービス <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 訪問リハ <input type="checkbox"/> その他 ( )			
認知度	<input type="checkbox"/> 日常生活自立度 ( ) 認知症 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			

退院時共同指導に出席できなかった場合でも、患者の状態を把握できるのではないか。

	施設名	担当者名	連絡先(電話・)
かかりつけ医			
訪問看護ステーション			
ケアマネジャー			

多職種連携の観点から、必要な情報ではないか。

# 事業における作業要領

## 対象患者の範囲

箕面市立病院において、次の1. 又は2. に該当する患者さんに、「事業説明」の紙面を用いて趣旨を説明し、理解をいただけた方を対象とする。

1. 入院前から箕面市内にかかりつけ薬局があり、退院後もそのかかりつけ薬局へ行く患者
2. 在宅医療絡みでカンファレンスを実施し、退院後箕面市内の薬局で処方せんを応需する予定の患者(この機会にかかりつけの薬剤師・薬局を持つ場合を含む)

## 「薬剤管理情報提供書」の提供対象となる薬局

本事業においては、箕面市薬剤師会所属薬局(会員薬局)を実施対象とする。

## 「薬剤管理情報提供書」の提供の方法

病院から各薬局にFAX送付提供する。



## 各薬局での活用状況の確認

1. 服薬管理に積極活用し、「薬剤管理情報提供書」の共有の有用性や記載項目について考察する。(事業後にアンケート調査)
2. 対象の患者さんから適宜(良いタイミングは各薬局で判断)アンケートを聴取する。  
※患者さんに直接書いていただき難しい場合は、聞き取りによる先生方の記載でも支障はない。



**注意:**一旦、情報提供書での情報共有があっても、万が一、その後に患者さんが途中で事業への協力を断る意思を示された場合は、受領した情報についても、すでに報告済みの集計結果を除いて、情報を破棄すること。

## 病院で患者へ説明(口頭での同意をもらう)している事項

平成 29 年度患者のための薬局ビジョン推進事業  
(退院時の情報共有)

患者さまの参加にあたっての説明書

1. 事業について  
当院は、箕面市薬剤師会と連携して厚生労働省・大阪府が実施している「平成 29 年度 患者のための薬局ビジョン推進事業(大阪府：地域連携による在宅医療サポート事業)」に協力しています。  
本事業は、患者さまが退院された後、保険薬局において安心して調剤や訪問薬剤管理等を受けていただくにあたり、保険薬局側で必要となる情報の内容(病名、アレルギー歴、副作用経験や剤型工夫など)や病院からの伝達方法を検討するものです。  
この事業において、次のような項目を検討します。  
(1)退院時に「薬剤管理情報提供書」を用いて、かかりつけの保険薬局に情報提供させていただき、その後の調剤や訪問薬剤管理指導等へのメリットを確認します。  
(2)病院と地域内の保険薬局がどのような内容で連携を行うべきか考察し、継続的に連携を行うにあたっての課題を検討します。
2. 薬局への情報提供について  
退院時に「薬剤管理情報提供書」を作成し薬局へ情報提供します。  
「薬剤管理情報提供書」では、入院中の病名や治療経過、肝機能、腎機能などの検査結果、服薬管理についての情報、日常生活(食事、睡眠、排泄、自立度、介護サービスの利用、介護サービスの提供者等)、退院時処方などの情報を提供します。  
病院と保険薬局が連携することによって、患者さまにより安全で効率的な薬剤管理指導等を提供できます。
3. 費用について  
本事業に参加いただくにあたり、患者さまから費用をご負担いただくことはありません。  
※診察費及び調剤等は、通常の保険診療の自己負担分を負担していただきます。
4. アンケートへのご協力をお願い  
参加された患者さま又はその代理の方に、連携先の保険薬局から簡単なアンケートをお願いする予定ですので、ご協力をお願いします。
5. 個人情報の保護について  
薬局に提供した「薬剤管理情報提供書」の個人情報は、患者さまの薬剤管理指導等の目的で利用され、お薬の情報と同様に大切に保管されます。  
本事業で得られた効果やアンケート結果の集計などを行いますが、個人情報は、匿名化したうえで、集計を行います。  
集計結果は大阪府および厚生労働省への実証事業結果の報告書に使う場合がありますが、その場合であっても、個人が識別できる情報を報告または公表することはありません。
6. 参加の自由について  
この事業への参加するかしないかは、患者さまの自由な意思で決めることができます。説明を聞かれてよくお考えの上、ご自分の意思で決めて下さい。参加されない場合でもその後の治療などに何ら不利益を受けることはありません。  
また、参加された後でも、理由の如何を問わず協力を断ることができます。お断りになった場合は薬局に提供済みの情報についてもすでに報告済みの集計結果を除いて破棄いたします。
7. 質問の自由  
この事業について質問がありましたら、いつでも質問して下さい。

※実物には次の各連絡先(責任者)を記載

- ・ 箕面市立病院
- ・ 箕面市薬剤師会
- ・ 大阪府担当部局

## <平成30年2月末現在状況>

○薬剤管理指導情報提供書について説明した患者：

43回（42名）

○うち同意を得た患者：32名 ※2月末時点では内3名は入院中

○同意取得説明の平均時間（N=43）

平均 14.3分（最大20分、最少10分）

○情報提供書作成時間（N=29）

平均 65.3分（最大110分、最少30分）

○提供先薬局 19カ所

### (患者背景)

○年齢層（N=29）44歳～96歳

60歳代以下 7名，70歳代 12名，80歳以上 10名

○男女別（N=29）男性 11名，女性18名

○入院の主たる病名（N=29）

骨折等の整形外科疾患

脳出血、脳梗塞等の神経内科疾患

糖尿病、がん

## アンケート事項(実施効果の評価)

### 事業に参加した関係者(薬局・病院)

- ・退院時の情報を病院から薬局に提供・共有を図ることの是非  
(病院側の業務負担、薬局側の活用展望)
- ・提供対象とする範囲 (在宅移行をする患者のみ or もっと広い対象で提供)
- ・提供情報の内容項目について  
(情報項目への改善点、他の情報提供文書への波及展望)
- ・連携のツールとして  
(カンファレンス等による直接対面による情報共有との比較)

### 事業に参加した患者(家族)

- ・退院時の情報を病院から薬局に提供・共有を図ることの是非  
(在宅移行における安心につながるかどうか)
- ・退院後の薬の管理について、薬局薬剤師に期待すること。  
(自由記載)

## 各参加薬局からのアンケートより抜粋

### ○病院から「薬剤管理情報提供書」の提供を受けることについて

- ◆ 薬剤管理を行う上で有益であると感じた 18件
- ◆ それほど有益と感じない 0件
- ◆ どちらとも言えない 1件

### ○「薬剤管理情報提供書」の提供対象とする範囲

- ◆ 在宅医療(訪問薬剤管理)に関係する患者のみで良い 2件
- ◆ 範囲を広げて提供して欲しい対象もある 10件 (抗がん剤治療、糖尿病等)

### ○提供方法やタイミングについて

- ◆ 病院からのFAX提供が良い 15件
- ◆ 患者の来局時の持参による提供で良い 2件
- ◆ どちらでも良い 1件

## 薬局側で有益と感じたエピソード(各薬局からの口頭聞き取りとアンケートより)

- 入院していることもわからなかったもので、病名や入院中の様子が分かることで、その後患者と接する上で有益。薬のことの説明がスムーズであった。
- 来局時の患者からの自己申告ではなく、服薬の理解度の実態などが分かる。
- 手術のため入院すると聞いていた患者について、入院中に脳梗塞が発症したため、抗凝固剤が開始となっていたこと等、情報提供書を基に把握できたため、適切な指導が出来た。
- がん患者は、併用薬も多いが、薬局内では深く質問し難かったり、家族だけが来局する(案外家族は病気の状況を知らない)場合もあるので、病院から直接情報提供いただくと、薬学的な管理にとって大変有用と感じる。
- 在宅医療のケースに限らず、患者概要を共有いただくことは総じて有用。また、純粋な薬学管理の情報共有ということではカンファレンスよりも充実していると感じる。カンファレンスも他職種との連携のため、参加できればより良い。
- 一包化や粉砕かどうか、は結局は薬局で改めて相談することになるため、こうしたサマリーで特に有用なのはADLや薬学管理の欄よりも、むしろ病名、入院経過、既往歴、特記事項、他職種の情報欄(複数類似意見)。

## 患者からのアンケートからの抜粋 ※薬局での聞き取りを含む

○退院時の情報を病院から薬局に提供・共有を図ることの是非

- ◆ 薬局で、病院と切れ目なく同様な薬の管理を期待できるので良いと感じる 6件
- ◆ 必要なことは薬局で自ら説明するので情報提供は不要と感じる 0件

- 継続した投薬管理指導が受けられるので安心できる。
- こちらの状況を把握してくれていたのが安心感があった。(家族が来局)

## 病院からのアンケートからの抜粋

- 担当した患者は自立されており、「日常生活動作」欄に記載する内容は少なかったが、それでも作成送信に45分は要した。書き慣れれば時間短縮は出来ると思うが、日々の業務に組み込む負担は大きい。ただ、薬剤師視点から、薬剤に関して管理状況等、詳細な情報提供ができる。
- カンファレンスへの参加や、担当看護師の協力を得ることで時間の短縮と正確な内容の記載が出来た。このような情報提供を行うことで、市中の薬局との繋がりが出来ると感じる。
- 項目が多い。薬歴や薬物治療の予定、副作用で見て欲しいポイントに絞ると、もう少し早く作成できると考える。また、特殊なプロトコルで治療中の患者の治療スケジュールなどは他に提供する機会がないので、有意義ではないかを感じる。

## 病院からのアンケートからの抜粋 続き

- 要介護区分等は変更されている可能性もあるので正確な記載が難しい。また、食事等のADL部分を記入することも薬剤師が提供する情報としては難しい。
- (既に医師の紹介状や看護サマリーなどもあり)多部署から多種類の文書が作成されることは合理的でない。糖尿病連携手帳のように1冊の手帳(ノート)で運用できないか。そうすれば病院側への情報のフィードバックも可能になる。
- 情報提供した内容が、薬局での指導にどのように役立ったのかそれにより何か変化があったのかなど、その後の情報が分からない。
- その都度ファックスは負担が大きい。メールでやり取りできるようになれば良いと思う。また、アナログでなく診療データの共有ができれば負担なく情報共有できるのではないか。
- 繰り返し入院される患者の提供書を欠かさず作成することは業務繁忙な場合もあり難しい。
- 退院後、服薬管理をする際に必要な情報や入院以前からの薬物アレルギーについて詳しく伝達できることが他の提供書とは異なっていて良い点。

### ① の事業まとめ

- 事業で実施した情報共有は、かかりつけ薬剤師・薬局の機能推進の観点からは有効な手段という意見が多かった。ただし、情報入手した薬局が、どのように有効活用できたか等、今後も検討を重ねていく必要がある。
- また、今回の事業で検討した「薬学管理情報提供書」の作成には平均で1時間程度要している集計もあり、このままのボリュームを病院側が日常的に対応することは業務量として困難という結果も伴った。
- モデル地域においては、本事業後には、活用の優先度が低いという意見があったADLをはじめとした項目削減や提供手段等を見直す等、退院時の情報提供自体の継続を考察していく他、双方向的なこととして、入院時に、薬局側から病院へ情報提供(入院時の服用薬の状況等)を行う内容や方法についても併せて議論していくなど、引き続き薬薬連携を土台とした情報共有についての充実を図っていく予定。

### 他地域への展開について

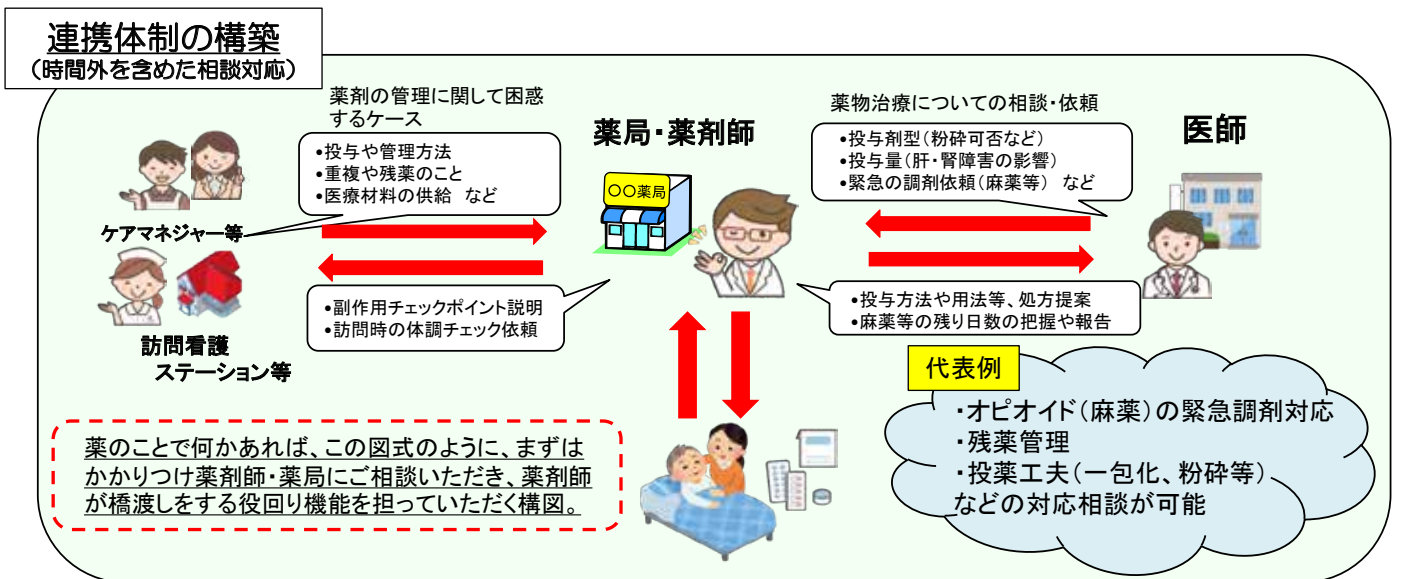
- 本事業で議論されたように、退院時の情報を薬局側へ直接提供すること自体は、一定の有用性はあると評価できるため、今回の結果を府内の他地域へも広く紹介し、その地域の土台となる薬薬連携の構築状況に合わせて、情報共有の検討を提案していく。

2 24時間の相談対応等、薬局薬剤師の役割について他職種からの理解促進

# 時間外を含めた他職種からの相談への対応



泉佐野薬剤師会  
(熊取町をモデル地域として)



WGで検討



在宅業務で薬局薬剤師が貢献できる業務内容と、地域の応需薬局リストや連絡先等をまとめ、地域の連絡会議を活用して、医師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護施設等に理解促進を図る。(薬局間の連携想定もあるため、かかりつけ薬剤師・薬局だけではなく、近隣薬局の情報も含めて知っていただく)



1. 相談者となった他職種より、相談回答に対する満足度等の調査を行う。
2. 職種や相談趣旨をまとめて事例集を作成するなど、未だ地域における各会議への参加や、時間外の対応をしていない薬局の後押しとしても活用していく。

## 他職種への協力依頼とリストの配布

## 薬局での相談記録の作成



支部: 18薬局

薬局名	住所	電話番号	認知症対応	在宅訪問	24時間対応	その他
熊取町ケアマネジャー	熊取町	0965-73-1111	○	○	○	○
泉南医師会	熊取町	0965-73-1111	○	○	○	○
...	...	...	...	...	...	...

平成29年度 患者のための薬局ビジョン推進事業  
大原市・地域連携による在宅医療サポート事業（連携体制の構築（24時間対応））

<記録様式>

日時	月	日	時
相談者職種	<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 歯科医師	<input type="checkbox"/> ケアマネジャー
	<input type="checkbox"/> 訪問看護師	<input type="checkbox"/> ヘルパー	<input type="checkbox"/> 介護職員
	<input type="checkbox"/> 行政	<input type="checkbox"/> その他	
相談施設名	相談者名	相談内容	
住所	電話番号	相談日時	

相談内容  
 薬局等の受診記録  
 処方箋  
 処方箋の添付  
 処方箋の送付  
 その他

具体的な内容と対応

対応結果（上手くいった点や、対応が困難であった点等）

薬局リストについて、基本的な薬局機能（麻薬や医療機器の対応可否等）の他、「時間外対応の都合」（曜日や時間帯、転送電話の有無等）についても盛り込んだ

## 事業の進行概要

### 平成29年

- 7月19日 事業の説明会の開催（参加薬局向け）
- 8月8日 平成29年度第3回熊取町医療介護ネットワーク検討委員会  
対象：医師、介護支援専門員、歯科医師、薬剤師、理学療法士、訪問看護師、医療ソーシャルワーカー  
※翌日から相談集計を開始
- 8月中旬 泉南地域の訪問看護ステーション（約20カ所）への事業協力依頼と薬局リスト送付
- 9月12日 平成29年度第2回熊取町医療介護ネットワーク連絡会  
対象：医師、介護支援専門員、歯科医師、薬剤師、理学療法士、訪問看護師、医療ソーシャルワーカー
- 9月16日 泉南医師会（熊取班）への事業周知
- 11月8日 熊取町ケアマネジャー会議での事業協力依頼
- ～12月末 相談集計の実施

### 平成30年

- 1月中 関係者へのアンケートの実施
- 3月1日 モデル地域での意見交換会を開催し、アンケート結果等を踏まえて、今後の取組みの検討

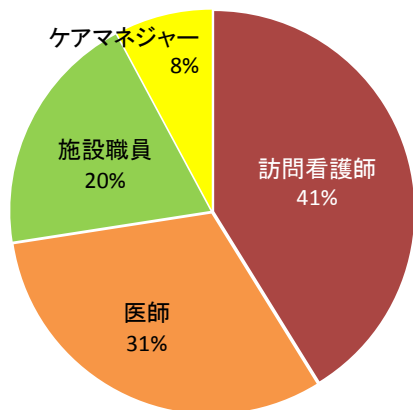


医師、訪問看護師、ケアマネジャーや介護職種等と連携し、患者の服薬状況や薬に関する相談を薬局で受けて集計した結果  
(実施期間:平成29年9月~12月)

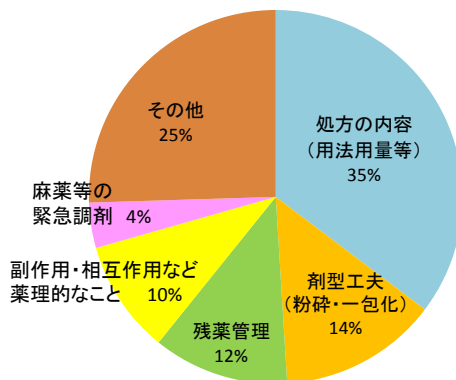
他職種からの相談応需の記録数 49件

※その他、患者・家族からの相談または問合せ38件あり(時間外(薬局閉局時)の集計)

○相談者の職種

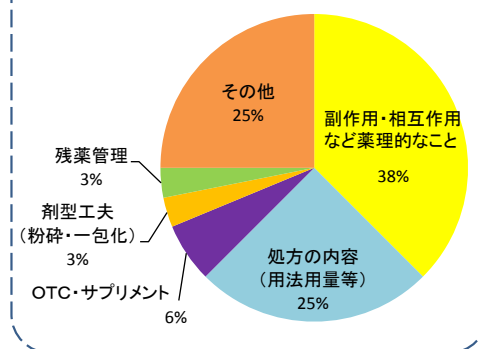


○他職種からの相談内容の分類



<参考>

○患者・家族からの相談内容の分類



他職種からの相談事例(抜粋)

**訪問看護師**

- ・注射剤の配合変化(抗生剤、H<sub>2</sub>ブロッカー、ステロイド剤の混合)の相談  
対応: 配合変化はないが、メーカーは単独ルートを推奨していることを助言。
- ・カリウム内服薬の剤型に関する相談(錠剤が服用させにくい)  
対応: 処方医と相談し、散剤への処方変更となった。

**施設職員**

- ・バンコマイシン散を服用させる上で苦味軽減の相談  
対応: メーカーにデータを照会の上、ブドウ糖液や単シロップの活用を提案。

**医師**

- ・処方した薬剂量が誤っていたことの連絡(土曜日の時間外)  
対応: 交付当日の対応(服用前)であり、患者あて速やかに連絡し、追加になった量を再分包を行った

## 他職種からの相談事例(抜粋)

### ケアマネジャー

- ・認知症患者の1日の服用回数の相談(なるべく服用回数を減らしたい)  
対応:処方医と相談し、薬剤の種類はそのまま服用回数を減らすこととなった。

### 患者(時間外相談に限った事例)

- ・子どもの起床と朝の服用が遅かったので、次回の服用時間の相談。  
対応:次回服用までの間隔時間などを回答対応。
- ・退院後の残薬整理や経管投与の相談(訪問看護師と共に)  
対応:処方日数の調整、OD錠への変更や粉砕して分包等を実施した。



他職種からの相談について、事例集を作成した。

## アンケート事項(実施効果の評価)

### 事業に参加した関係者(薬局薬剤師)

- ・薬局機能の周知をして以降、他職種からの相談の増加があったかどうか。  
(件数と内容)
- ・相談対応への負担について  
(相談趣旨毎の対応時間帯の希望など)
- ・他職種に期待すること。  
(相談内容による時間帯への配慮のことなど)
- ・近隣薬局との連携展望  
(連携、輪番対応の展望や意見)

### 事業に参加した関係者(他職種)

- ・相談してみて、対応に満足できたか。  
(相談した内容(時間帯、対応結果))
- ・今回の事業で連絡をした薬局は、患者のかかりつけ薬剤師・薬局か。  
(それ以外の薬局だった場合の理由)
- ・薬局薬剤師に期待すること

## 各参加薬局からのアンケート(意見交換会での意見含む)より抜粋

### ○事業前(地域の会議で他職種への薬局機能の周知前)と比較してどうか。

- 他職種から、事業前よりも相談の敷居を下げてもらえた印象がある。
- 時期により差があったため、正確な数比較は不明だが印象としては増えた。
- (他職種ではないが、)患者意識について、まずは薬局薬剤師に相談しよう、という意識が高くなってきていると感じている。

### ○近隣薬局と連携して対応した事例について。

- (複数の店舗があるチェーンで、)緊急対応を本店で行った。
- 土曜夕刻、本来のかかりつけの薬局が不通であるため、代わりに緊急調剤(週末の分のオピオイドが不足)の依頼を受けた。→週明けに該当薬局へ情報共有した。

### ○相談応需における課題や負担。他職種に理解を求めたい事項について。

- 気軽に薬局に相談していただければ良い。(処方内容、ポリファーマシーの助言も)
- お薬手帳を活用してもらいたい。
- 午前中は調剤業務が多忙。(予めアポイントをいただくと、十分な対応が出来る。)
- 今のところは負担は大きくないが、在宅業務が増えた際に対応できるかは不安。

(類似意見はまとめています)

## 他職種(相談者)からのアンケートより抜粋

### ○相談して満足(納得)できたこと、薬局薬剤師へ期待すること。

#### 医師

- 時間外のオピオイドの緊急対応、粉碎対応や残薬整理。相談したことへの対応に満足。
- 相談薬剤について、後で回答が確認できるようにFAXで返信いただけると有り難い。
- ある症状の患者さんに、感冒薬を出す際、禁忌対象となっていることを教えてもらった。
- 24時間対応を標榜していたが、時々連絡が付かない薬局もある。
- 残薬への積極的な対応や、多剤処方への対応を期待している。
- 小児薬剤の用法用量、相互作用や適用に関する確認はいつも助かっている。

#### ケアマネジャー・施設職員等

- 残薬調整、一包化や粉碎について対応いただけた。
- 同種同効薬について相談し、回答を貰えたことで、入居時に安心して手渡すことが出来た。
- 認知症状や家族環境など、薬局窓口では把握しきれないことも多くあると思うので、今後とも相談に乗っていただけると有り難い。

(類似意見はまとめています)

## 他職種(相談者)からのアンケートより抜粋

○相談して満足(納得)できたこと、薬局薬剤師へ期待すること。

### 訪問看護師

- 一包化や配薬カレンダーにセットしやすいように薬をまとめてもらえた。
- 副作用や相互作用について、いつも丁寧に回答してもらっている。
- 一包化に適さない薬剤の工夫についての相談。食直後と食後の服用との差など、相談できた。
- 医薬品以外の用品が不足した場合も含めて、事前に伝えているものは迅速に配達いただける場合も多いが、予定外の場合は配達いただけず、直接受取に行った。
- 薬局薬剤師との連携を密にして、患者個々のニーズに合わせて在宅生活を支援していきたい。
- 情報提供書の交換等、もっと情報共有をしていければ良い。
- 麻薬管理や自己注射など、自宅で積極的な患者支援をしていただきたい。

(類似意見はまとめています)

## 2 の事業まとめ

- 相談事例の集計結果において、時間外の間合せとしては、患者からの服用面の不安に関する相談が多く、その殆どは電話上のコミュニケーションで解決されていた。一方で、他職種からの相談の殆どは開局時間内にあることが多く、休日の緊急対応は少数であり、24時間対応を標榜周知したことで、夜間の対応が日常的になっているという申し出はなかった。
- 週末のレスキューの数量不足や処方内容の修正といった緊急性が高いものは土日でも対応需要があった。(相談が土日であっても、対応は週明けでも支障がない場合も少なくない。)
- 相談者となった他職種に対して実施したアンケート結果からは、相談結果に対する満足度が高い回答が多く、薬局薬剤師に期待する事項も多い。
- モデル地域では、今後とも地域での各種会議への参加と、地域における薬局機能の活用提案を継続していく予定。

### 他地域への展開について

- 薬局薬剤師が他職種からの相談を応需することで、円滑な薬剤管理に繋がった事例が多く確認できることから、府内の他の地域においても、他職種が参加する各種会議(例:地域ケア会議等)への積極的な参加を呼び掛けていく。
- 薬局リストやマップの内容を検討する際には、時間外の対応都合や連絡先の周知状況も含めて検討することが望ましい。